

# 第1学年道徳学習指導案

日 時 平成27年10月8日(木)5校時  
対 象 男子3名 女子3名 計6名  
指導者 谷 地 一 枝

- 1 主題名 何度も粘り強く 〈内容項目 1－(2) 勤勉努力〉  
資料名 「こぐまのらっぱ」(出典 東京書籍 道徳1 みんななかよく)

## 2 主題設定の理由

### (1) ねらいとする価値について

学習指導要領の道徳の内容 第1学年及び第2学年の1「主として他の人とのかかわりに関すること」の(2)に「自分がやらなくてはならない勉強や仕事は、しっかりと行う。」と示されている。これは勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させる児童を育てようとする内容項目である。この項目は、中学年の「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」、高学年の「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」、中学校の「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」に発展していく内容である。

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことは、あきらめずに最後までやり抜くことが大切である。自分の能力を見極め、実行可能かどうか結果を推測することも大事だが、よりよい自己を実現しようとする向上心との結びつきが大切である。そのためにも、児童が目標を立て、夢や希望をもってその達成や実現への志をもち、取り組む姿勢や過程が重要であり、やり遂げた時の喜びや達成感、がんばることができた自分にも気づくことができるようにしたい。

### (2) 児童について

1年生の子どもたちは、学校生活にも慣れ、日々の学習や係、当番活動などを通して、自分で行わなければならないことにも気づき、取り組み始めている。しかし、やるべきことの自覚はあるものの、忘れてたり怠けたりする児童もいる。現在自分が一生懸命取り組んでいる事柄に目を向けながら、自分で行うべきことを最後まで粘り強く行おうと努力する心情を育てていきたい。

### (3) 資料について

本資料は、演奏会に向け、らっぱの練習に取り組むこぐまが主人公である。練習中こぐまは、なかなかいい音が出ず、らっぱを吹くのをやめようかと考える。しかし、小鳥たちの会話からヒントを得て努力を重ね、だんだんといい音が出せるようになり、演奏会は大成功する。

音楽隊の一員としての役割を自覚し、お客さんのことを思い練習に励むこぐまの姿を通して、途中で投げ出してしまうやらずやり遂げることの大切さを十分にとらえられるようにしたい。

### (4) 指導にあたって

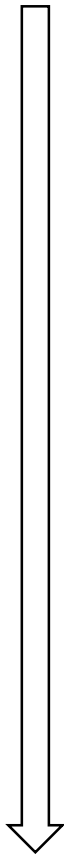
「導入」の段階については、事前のアンケートから「今、学校で自分ががんばっていること」を話させ、価値への導入を図る。

また「展開前段」の資料提示では、資料に興味を持って読むことができるように紙芝居を活用する。また、場面ごとに変化するこぐまの気持ちを捉えられるように、挿絵などに高低をつけ板書に表わし、考えを深めさせる。

さらに「展開後段」では、資料と関連させて粘り強く取り組んだことについて書き、価値の一般化を図る。

「終末」の段階では、児童の体験を想起させ、何度も粘り強く取り組んだ児童を紹介し、今後の意欲付けをしたい。

### 3 本時を「要」として位置づけた指導構想図 《 1 - (2) 勤勉努力 》

	行事・特別活動等	道徳の時間	各教科等の学習	日常指導・その他
4月			○図工（通年） 「作品作り」 自分の思いを持ち、最後まで作品を仕上げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班活動</li> <li>・係</li> <li>・当番活動</li> <li>・はつらつタイム</li> <li>・堰贄太鼓</li> </ul> 
5月	運動会	○頑張る心 「うかんだ うかんだ」 1 - (2) 勤勉努力 自分の目標に向かって、一生懸命努力しようとする意欲を育てる。(7月)	○体育 「水遊び」「てっぼうあそび」「なわとび」 目標を持ち、粘り強く取り組ませる。	
6月				
7月		○何度も粘り強く 「こぐまのらっぱ」 1 - (2) 勤勉努力 自分で行わなければならないことは、最後まで粘り強く行おうとする心情を育てる。(10月)	○音楽 「どれみで うたったり ふいたりしよう」	
8月				
9月	敬老会	○学活 「がっきのめあて・ふりかえり」 「なつ・ふゆ・はる やすみのすごしかた」		
10月	マラソン大会			
11月	学習発表会			
12月	小中音楽会			
1月				
2月	6年生を送る会			
3月	卒業式			

### 4 本時の指導

#### (1) ねらい

自分で行わなければならないことは、最後まで粘り強く行おうとする心情を育てる。

(2) 展開

段階	学習内容と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	<p>1、自分が行わなければならないことについて、話し合う。</p> <p>○自分が今、学校でがんばっていることは何ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強や音読。</li> <li>・マラソン。</li> <li>・太鼓の練習。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にアンケートをとり、日頃続けて行うべき事柄について経験を想起する。</li> </ul>
展開 前 段 30分	<p>2、資料「こぐまのらっぱ」を読んでこぐまの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>○こぐまさんについてどう思いましたか。</p> <p>○いい音が出せなかったこぐまは、どんな気持ちになったでしょう。</p> <p>○小鳥たちの話を聞いて、こぐまはどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>◎こぐまはどんなことを思いながら、練習を続けたでしょう</p> <p>○演奏が終わり、なりやまない拍手を聞いて、こぐまはどんな気持ちになったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・らっぱが上手に吹けてよかったな。</li> <li>・練習を続けてえらいな。</li> <li>・吹くのをもうやめてしまおうかな。</li> <li>・うまく吹けなくてはずかしい。</li> <li>・がんばっても吹けなくてくやしい。</li> <li>・そうか、小鳥さんのようにやってみよう。</li> <li>・力を抜いて吹いてみよう。</li> <li>・すぐにはうまく吹けないな。</li> <li>・いい音が出てきた。この調子でがんばるぞ。</li> <li>・うまく吹けるまでがんばるぞ。</li> <li>・聞きに来てくれるみんなのために。</li> <li>・やったあ。いい音が出た。</li> <li>・みんなと上手に演奏で</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を使って、紙芝居風に資料を読む。</li> <li>・こぐまの行動について考えさせ、課題意識を持たせる。</li> <li>・挿絵を利用し、あらすじを確認する。</li> <li>・上手にらっぱを吹こうとすればするほど力んでしまい、あせってしまうこぐまの気持ちを捉えさせる。</li> <li>・小鳥たちの会話をヒントに、練習に向かう意欲を取り戻していくこぐまの気持ちの変化を捉えさせる。</li> <li>・練習によって少しずついい音になっていく様子を捉えさせる。</li> <li>・一人の活動ではなく、音楽隊の一員としての役割や責任があることをおさえる。</li> <li>・困難に負けず、努力したからこそ得られるこぐまの満足感を十分味わえる</li> </ul>

		きてうれしい。 ・がんばって練習してよかった。 ・みんな満足してくれた。	ようにしたい。  ・話の流れを振り返りながら、価値について確認する。
展開後段 9分	3、今までの自分の生活を振り返る。 ○今日、みんなで学習したことについて、こぐまさんに伝えましょう。	・マラソンは苦しくなるけど、あきらめなくて走るよ。 ・鍵盤ハーモニカは難しいけど、何回も練習するよ。	・こぐまの行動と自分のことを重ね合わせ、がんばることをワークシートに記述させる。 (書く活動)
終末 3分	4、今日の学習で学んだことを振り返り、ねらいとする価値への実践化への意欲づけとする。 ○粘り強くがんばり続けている人を紹介します。	・堰賛太鼓の練習など	・学級の児童や上学年児童の作文などから紹介し、意欲付けを図る。

### (3) 評価の観点

- ・あきらめなくて粘り強くがんばり続けるこぐまの気持ちに共感することができたか。
- ・今がんばっていることや苦手だと思っていることを、これからも努力しようという気持ちを持つことができたか。

### 5 資料分析 (別紙)

### 6 板書計画 (別紙)

5 資料分析

資料名 こぐまのらっぱ  
1 - (2) 勤勉努力

【ねらい】 自分で行わなければならないことは、最後まで粘り強く行おうとする心情を育てる。

場面	音楽隊で練習をするが、こぐまは、らっぱをうまく吹くことができない場面。	小鳥たちの話を聞き、こぐまが納得する場面。	こぐまが小鳥たちの話をヒントに何度も何度も練習する場面。	演奏会の日、こぐまは、らっぱを上手に吹くことができた場面。
主人公の状況	音楽会が近いが、こぐまはらっぱを上手に吹けない。練習は夜まで続いたが、らっぱを吹くのをやめようかと思う。	家の前で座っていると、小鳥たちのいい声で歌う秘訣を話しているのが聞こえてくる。	なかなかうまくいかないが、演奏会を聞きに来てくれる山のみんなを思い、何度も何度も練習を続ける。	パーパーといい音でらっぱを吹き、大きな拍手が鳴りやまない中、うれしい気持ちでいっぱいになる。
主人公の心の動き				
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹くのをもうやめようかな。</li> <li>・うまく吹けなくてははずかしい。</li> <li>・がんばっても吹けなくて悔しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小鳥さんのようにやってみよう。</li> <li>・力を抜いて吹いてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐにはうまく吹けないな。</li> <li>・いい音が出てきた。この調子でがんばるぞ。みんなのために。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やったあ。いい音が出た。</li> <li>・みんなと上手に演奏できてうれしい。</li> <li>・がんばって練習してよかった。</li> </ul>
発問	いい音が出せなかったこぐまは、どんな気持ちになったでしょう。	小鳥たちの話を聞いて、こぐまはどんな気持ちになったでしょう。	こぐまはどんなことを思いながら、練習を続けたでしょう。	演奏が終わり、なりやまない拍手を聞いて、こぐまはどんな気持ちになったでしょう。

